



令和7年(2025年)度 学校経営方針について

校長 松島孝司

目指す学校像



熊本大学教育学部附属中学校
Junior High School Attached to Faculty Education, Kumamoto University

綱 領	真実を求めて 響きあえ たくましいからで 響きあえ 厳しい知性で 響きあえ 豊かな心で
--------	---

響きあいの精神のもと

生徒・教職員・保護者が誇りを持てる、これからの時代を担う学校



学校教育目標

豊かな人生と社会をつくるために、
自ら考え主体的に行動する生徒の育成

生徒の可能性は無限大、信じてやらせる

こども基本法の理念を大切に

「言われたことに従順に従う」のではなく、「素直に話を聞き、自ら考え判断する」ことを大切に

対立やジレンマ、困難に直面しても、折り合いをつけしなやかに復元できる力（レジリエンス）を育む

生徒の可能性を伸ばすために



一人ひとりの生徒を、とにかく大切に

生徒・保護者との信頼関係

一人ひとりの成長に気づき、認めることができる感性を

基本的な生活習慣（挨拶、掃除、時間管理）を職員・生徒と一体となって徹底し、真の習慣へ

⇒ 「気の利いた附中生」

生徒が「ホンモノ」に触れる機会を

3つの重点項目



固定観念にとらわれずに

「生徒の自主的活動の充実、学校経営への参画」等の学校運営のしくみも含めて、これからの時代を担う学校教育のかたちを職員自ら提案し、情報共有しながら実践・検証していく。

① 生徒の主体性を育成できる学びや仕組み

② 働きがい改革（ライフワークバランス）モデル

③ 大学附属の強みを活かすことができる仕組み

生徒の主体性を育成できる 「学び」や「仕組み」を構築する

生徒の主体性育成の視点から、あらゆる場面で、計画段階から生徒の出番をつくり、適切な支援を行う

授業、特別活動や部活動等、すべての学校教育活動で、生徒自身が課題意識を持った探究的活動を充実させる

教職員のやる気とやりがいを高める 働きがい改革(ライフワークバランス)モデルを 構築する

校務のDX化、
及び勤務時間の
適正化をさらに
推進する

不要な業務の見
直しを行い、業
務内容削減を推
進する

部活動地域移行
に向けたモデル
実施や活動時間
縮小を推進する

「熊本大学附属」の強みを フルに活かすことができる仕組みを構築する

熊本大学職員の本
校教育への参画を
推進すると共に、
生徒が大学で学ぶ
機会を増やす

同窓会の人材によ
る本校教育への支
援を推進し、生徒
が社会から学ぶこ
とができる支援体
制を構築する

国際クラス設置に
向けて、一般クラ
スとの相乗・協働
効果を高める、カ
リキュラムの在り
方を検討する

附属中学校教員としての矜持を

研究、実習、地域への貢献という附属中の使命を念頭に

やりたいこと、困ったことは、早い段階で報告・連絡・相談を

不祥事は、家族、同僚、生徒・保護者に対する最大の裏切り